

No.153 2018 NOVEMBER

平成30年11月2日発行



愛と復興

- 平成29年度決算認定 2
- 『八十里越』あと5年 8
- 一般質問9名が町政をただす 13

発行：只見町議会広報広聴常任委員会
〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2591番地30
TEL.0241-82-5300 FAX.0241-82-5222
E-mail:gikai@town.tadami.lg.jp

議会だより

只見



只見町議会中継は、只見町議会
ホームページからも視聴できます
←議会中継へ

小川サロン 秋の運動会
(11ページに説明を掲載)

あらまし

9月会議が9月11日から21日まで開催され、平成29年度決算が認定されました。審査は、決算特別委員会により3日間集中審議が行なわれ、決算監査にあたった監査委員他、町長、副町長含む町当局説明員23名が出席し、主に事業効果などの視点から熱心な質疑が交わされました。本会議最終日の21日、決算特別委員長報告を採択し閉会しました。

交流促進や住宅政策に議論集中

積極財政求める

決算
審査

収支

平成29年度の全12会計歳入歳出決算額は、歳入85億7400万円、

歳出83億1600万円となり、歳入歳出とも前年度比減額決算となった。一般会計における実質収支は、1億4940万円の黒字で、内8000万円を基金に積み立て、6940万円を翌年に繰り越している。



熱戦が繰り広げられた第4回河井継之助杯只見剣道大会（10月21日）

橋や住宅など老朽化進む

新たな財政負担今後長期化

特徴

決算審査報告書は、町長が平成29年度施政方針で重点課題とした人口減少対策への対応を重視。老朽化した道路、橋、住宅などの長寿命化に対応する新たな財政負担が今後の長期課題としたが、地方創生の視点からは消極的な財政運営だったとしている。

最大の財源である国からの地方交付税は、26億8390万円で前年度より減収となり、今後国の推移が更に注視される。町税は、町民税、軽自動車税が増加したものの大規模固



平成30年度只見町成人式（湯ら里）

定資産税の減収で全体では前年度比0.5%減収した。国庫支出金は、地方創生加速化交付金が約7880万円と大幅に減少。決算審査特別委員会の中では交流人口対策や住宅対策などへ積極投資をすべきとする意見が相次いだ。なお、29年7月に豪雨災害が発生したため、災害復旧事業費の伸びが特徴となっている。

平成29年度各会計決算の議決状況

(千円以下切り捨て)

会計名	歳入	歳出	議決内容	賛否	
				認定	不認定
一般会計	57億7729万円	55億6231万円	原案認定	10	0
国民健康保険事業特別会計	6億237万円	5億8789万円	原案認定	9	1(山岸)
国民健康保険施設特別会計	4億3172万円	4億3161万円	原案認定	9	1(山岸)
後期高齢者医療特別会計	1億4333万円	1億4332万円	原案認定	9	1(山岸)
介護保険事業特別会計	7億926万円	6億9869万円	原案認定	9	1(山岸)
介護老人保健施設特別会計	2億5798万円	2億5796万円	原案認定	10	0
地域包括支援センター特別会計	993万円	993万円	原案認定	10	0
簡易水道特別会計	2億1940万円	2億1873万円	原案認定	10	0
観光施設事業特別会計	4121万円	4121万円	原案認定	10	0
交流施設特別会計	7693万円	7693万円	原案認定	10	0
集落排水事業特別会計	2億9019万円	2億8728万円	原案認定	10	0
朝日財産区特別会計	1438万円	44万円	原案認定	10	0

決 算 審 査

特別委員会

平成29年度の一般会計、各特別会計の決算審査は、決算特別委員会（委員長 鈴木征）に付託され審議されました。事業の効果や町政全般多岐にわたり議論が交わされました。いくつか絞って紹介します。

質疑 応答



質疑をまとめる鈴木委員長



駐車場整備中の亀岡農村公園

交流促進

亀岡スポーツパーク

計画通りの事業実施を

問

ビーチバレーの合宿候補地として日本バレーボール協会の幹部が視察来町されるなど東京五輪を前に誘致の絶好のチャンスだ。ここで立ちどま

らず事業を推進すべきだ。

答

財源が想定以上となった。やらないわけではない。もう少し精査し皆様の意見を聞き決めていく。

住宅対策

空き家活用

住宅整備の促進を

問

若者の定住や企業誘致を進める上で、住宅整備は欠かせない。更には、教員住宅も不足の状況にある。

答

企業対応は別途考えていく。現在整備中の住宅が完成して改めてその後の建設を検討したい。

問

大倉礼堂団地は、老朽化で入居制限も行なわれている。今後の方針を伺いたい。

答

昭和48年建築で45年経過、現在老朽化等で入居を制限しているが、将来的に整備が必要であり、内部検討は始めている。



不足している教員住宅

町立小学校在り方検討会

協議経過と今後は

問

近年の子供の入学者数を見ると統合も検討しなければならぬ時期に来てい

答 統合ありきの検討ではない。少人数教育の学力向上へのメリットや通学面の

デメリットがある。更

には、地域と学校のつながり、子供達が近くの人たちに見守られているという大切な意義もある。少人数校のメリ

ットを最大限に生かしながら課題の解決につなげたい。



3地区小学校による体育交歓会が開催されている

U・Iターン助成金

補助額の見直しも

問

この事業の目的は、人口減対策と地方創生の推進だ。効果はあったのか。額も再検討してはどうか。

答

過去3カ年で48件、一定の効果は上がっていると考えている。積極的に改善提案はしていきたい。

問

若者が戻れば高齢化率が下がる事にもなる。SNSの活用等で積極的なPRを願いたい。

答

新成人へのアンケートでも6名のUターン希望者がおられる。積極的なPRに努めたい。



U・Iターンを望む地元企業

中山間直接支払い交付金

申請事務複雑・支援を

問

交付金を返還した経緯や集落の数は。平成24年度から28年度まで5カ

答 年で取り組んできたものだ。5集落ある。集落には大変いい制度だ。しか

問

し申請事務などが複雑で活用出来ない集落もあると聞く。町の積極的な支援を望む。

答

事務の複雑さはある。町でも事務の支援をしながら進めている。

決算特別委員会意見要約

本会議最終日、鈴木征決算特別委員長より審査報告が行なわれ、満場一致で29年度決算が認定された。

なお、意見の要約は以下の通り。

①職員の残業

一部の命令行為に適正を欠く事例があるので、職員の健康管理上も適切な勤務命令に努めること。

②過疎、少子・高齢化、人口減少対策

本町の重大な政策課題であるため、スピード感を持ち、積極的に取り組むこと。特に、空き家を含めた住宅政策の充実が欠かせない課題である。

③交流人口対策

JR只見線、国道289号の全線開通を見据え、道の駅整備等積極的な施策を図ること。

補正 予算

平成30年度一般会計補正予算(第5号)が可決されました。例年9月会議に追加提案されるこの冬の除雪費は、今回の補正で総額約1億5000万円となります。その他、新たに町民の健康づくり事業、役場庁舎暫定移転に係る外構工事費、梁取地区圃場整備に向けた計画策定事業などが含まれます。

先駆的健康づくり県内15市町村で

計8回 食事指導など



幼児からの運動習慣「さんさんキッズ事業」

運動習慣が大切

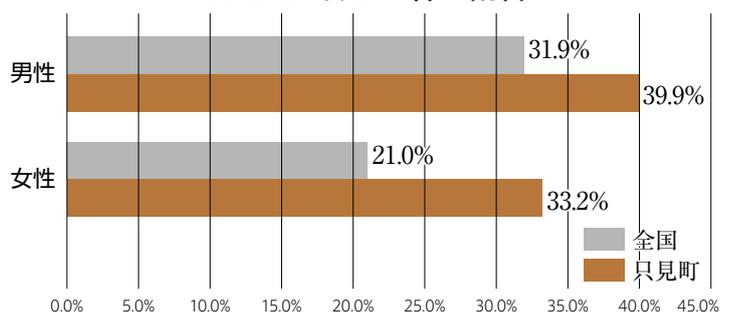
肥満防止の解消に向けた「先駆的健康づくり事業」の予算133万円が可決された。冬期間はどうしても糖質が上がりやすい傾向にあり、健康診断で肥満傾向にある町民約20名を募集し、計8回の食事指導やトレーニング

メニューを計画する。今後、若い世代へのプログラムも検討予定。現在只見町では幼児期から運動を習慣づける「さんさんキッズ事業」が各保育所で既に始まっている。

肥満度について

40歳～74歳におけるBMI 25以上の肥満割合は、男女とも全国を上回っています。(国保被保険者の健診データより)
◎BMIとは、身長と体重をもとに体格が肥満型か、やせ型かを表す数値

BMI 25以上の者の割合



出典：平成28年国民健康・栄養調査、平成28年度特定健診結果(国保被保険者)

第5号補正予算主要内容

(歳入)	金額
町税(町民税)	596万円
地方交付税(普通交付税確定)	2億7855万円
県支出金(梁取圃場整備に向けた計画策定等)	620万円
(歳出)	
町下庁舎外構整備工事	4060万円
先駆的健康づくり事業業務委託料	133万円
中山間地域所得向上計画策定委託料	451万円
林道補修工事(余名沢他計4路線)	200万円
町道除雪委託料	6120万円
克雪対策事業補助金	300万円
長期償還金	7961万円



雪と暮らし

高齢化にやさしい制度か

濁水により心配される田んぼ

- 問** 現在の克雪対策は、高齢化で町民の実態に合っているか。
- 答** 他の除雪支援制度ともあわせて再検討する。
- 問** 町下庁舎の今後の工事計画は。
- 答** 年内に外構、その後玄関などに移る。
- 問** 梁取圃場整備は稲作対象か。
- 答** 調査し用途に見合った整備を行なう。
- 問** 古い湯ら里送迎バスの買い替えは。
- 答** まず、財源を検討したい。
- 問** 濁水で稲作の減収が想定されるが、調査は。
- 答** 8月雨量は平年並みで、現在ポンプの貸し出しもない。なお注視していく。

観光はどう変わる

山村観光の未来 専門意見求める

特別委員会

交流施設調査特別委員会が9月会議の後に開会された。「八十里越」開通が奥会津へ与える影響や東京五輪後の日本の観光動向の変化など、広域的な視点から町の交流人口対策を見極めていく必要があるため、委員会では今後専門的意見も聞きながら20年以上経過した「湯ら里」の今後の方向性を探っていくことを決めた。なお、今後の流れは概ね下記の通りとしている。

「八十里越」開通後の湯ら里は

交流施設 調査特別委員会

今後の流れ(予定)

現場意見聴取

専門家意見聴取

方向性の取りまとめ

年度末目途に町長に提言



交流拠点を目指す湯ら里（農家民泊開校式）

八 十 里 越

国道289号「八十里越」

あと5年

平成30年度

只見・三条期成同盟会開催

只見町と新潟県三条市で構成する国道(289号)八十里越地点開発促進期成同盟会が7月31日三条市で開催されました。総会において事業の促進と国家予算の増額を求める議案が可決され、席上、開通まで「あと5年」という今後の見通しが示されました。

総会開会前、工事現場を視察し5号橋梁(延長337メートル、高さ82メートル)や工事全体の進捗状況を確認した。

長岡国道事務所の説明によると平成30年3月末までの事業進捗率は全体の約84%で、このままのペースで事業が進めば約5年後には全線開通の見込みである、との見解が示された。

更なる予算獲得に努力

現場視察終了後、総会が開催され、会長に国定三条市長が、副会長に菅家只見町長がそれぞれ承認された。

なお、本事業への平成31年度国家予算の大幅増額、福島・新潟両県の本事業に対する平成31年度予算の大幅増額を重点目標とし、関係当局に対し効果的な要望活動を行なうことを決議し閉会した。



国土交通省による現場説明

開通後こんな期待も

最も近い救急病院が三条市に

医療連携

新潟県三条市は、救急医療施設となる県央基幹病院を現在計画中であり、5年後の開業を目指している。これができるると只見町からの所要時間が約75分となり、現在の会津若松市よりも近い救急医療施設となる。三条市との医療連携は今後町民生活に、より安心を与え、大きな期待が寄せられている。

企業連携

開通後は交通量の増加や交流人口の拡大に伴い、様々な経済活動の活性化が期待される。特に企業間の連携や新事業の展開により、雇用の拡大や新たな販路の拡大が期待されている。

すでに(株)会津工場では三条市に本社を持つ(株)スノーピークと連携し、製品の納入を開始している。早期開通へ向けた活動とともに、開通後の新たな企業連携を町民とともに進めていかなければならない。

人口流出に歯止め

三条市内における企業の共通課題は、人材不足である。他方、奥会津地域では、十分な就業機会を提供できず、若者の都会への流出が大きな課題となっている。

八十里越が開通すれば、三条市内は約1時間間の通勤圏内となり、町の人口流出に歯止めをかけ、若者の定着に期待がよせられている。

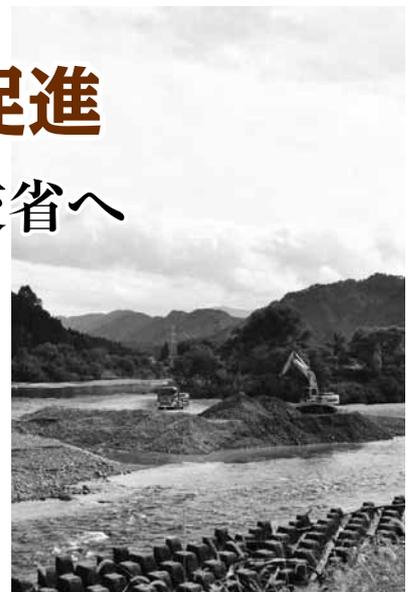


町民の暮らしの
安心に
つながるねえ

要望活動

只見川河川整備促進

東北地方整備局、国交省へ



伊南川と只見川の合流地点

- 平成23年新潟福島豪雨災害後の河川整備計画事業において、8月8日一級河川只見川河川整備促進期成同盟会では次の要望を実施した。
- ① 只見川河川整備計画事業の早期実施
 - ② 只見川河川改修予算の確保
 - ③ 河川の堆砂対策を含めた河川管理の強化
 - ④ 只見川、阿賀川、阿賀野川を含めた総合的な土砂管理対策、治水対策の充実

委員会 活動

総務厚生常任委員会

地方議員研究会主催 セミナーに参加



地域ケアシステムの行政視察（埼玉県小鹿野町）

地方議員研究会主催の前横須賀市長「吉田雄人氏」の講演に参加した。市長時代、常に問題意識を持ち「いかにしたら横須賀が良くなるか」をテーマに、絶えずデータ分析しながら取り組んでこられた。平成25年当時横須賀は、「転出超過日本一」の基地で暗いイメージの町だった。発想の転換で軍港という負のイメージから積極的に「基地の町」を売ろうと決め、様々な施策を打ち出した事例が発表された。

「よこすか海軍カレールー」「横須賀軍港め

ぐり」「基地開放イベント」「ドル街横須賀」「生きた英語を学べる街」などである。これらの施策で共通しているのは「無い物ねだりからあるもの探し」。「あるもの利用」の発想を今後の町づくりを活かさなければならぬ。



広報広聴常任委員会

議会運営の効率化に向けて

議会のICT化へ向け、先進地である埼玉県飯能市議会へ視察研修に伺った。導入にあたっては、紙の文書も併用しながら全員協議会から段階的に導入されていた。また、議会日程の連絡などもメールを活用されており、事務局の事務負担が大幅に軽減されていた。今後委員会としては、ICT化導入に向けて当局とともに検討していく。



議会のICTに向けての行政視察（埼玉県飯能市）

県道小林・館ノ川線 改良促進を県に要望



県議会に要望（県道小林館ノ川線）



現状の小林外出地内

小林外出地内測量設計始まる

8月29日、県道小林・館ノ川線改良促進期成同盟会で県に対する要望活動が行なわれた。参加者は、沿線の区長はじめ議会経済文教常任委員会の全委員、町当局からは橋本副町長

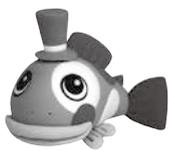
他担当課長らが参加した。県庁では、県議会を始め土木部長に今後の見通しや早期の事業推進を強く求めたが、改良が困難とされていた小林外出地内について、平成30年度に測量

設計や地質調査を進めるとの報告を受けた。その後南会津建設事務所においても同様の要望を行なった。防雪対策、雪崩防止対策も含め今後も引き続き要望活動を実施していく。

議会運営委員会

6月会議以降9月会議までの間、議会運営委員会では左記の件が審議された。（抜粋）

- 7月会議の開催について（P12）
- 7月第2回会議の開催について（P12）
- 議場の改修計画進捗状況について
- 9月会議開催について（P2）
- ◇ 一般質問の通告内容協議
- ◇ 委員会の所管事務報告内容協議
- ◇ 決算特別委員会の設置について



表紙の写真

小川サロン 秋の運動会

元気なお年寄りをテーマに議会だよりの表紙を撮っています。

今回は小川サロンの運動会にお邪魔しました。開始は午前10時、まず、朝日駐在さんから交通安全のお話。その後、全員でラジオ体操、紅白玉入れやパン食い競争など4種目を制覇。動いて、笑って、手をたたく、みんなとても和やか。そんな1枚の紹介です。





旅行村現在の新田沢側進入路

7月会議

旅行村改修工事はじまる

7月会議が7月11日と30日に招集され、旅行村改修事業などの工事請負契約締結議案3件、冬に備えた除雪

ドーザー1台分の財産取得議案などが提案された。

資料の提出を求め熱心な質疑を交わし、提案されたすべての議案が可決された。内容と質疑は以下の通り。(抜粋)

議案	金額	Q & A
只見・寄岩統合簡易水道事業	5054万円	Q.只見水道への影響は A.量的にも影響はない
除雪ドーザー(18トン級)	2973万円	Q.指名業者は何社か A.6社指名した
旅行村改修事業	1億5100万円	Q.進入路の改良が必要と思うが A.新田沢側は困難、検討したい
山里橋補修工事(長寿命化)	8640万円	Q.国県の補助はあるのか A.現在交付金を申請中
保育所ブロック塀	440万円	Q.ブロック塀の構造調査は A.調査し当初予算に提案したい



ごみの減量、分別化が求められる

広域議会

南会津地方環境衛生組合議会報告

8月20日に議会定例会が開催され、職員の給与に関する条例の一部を改正する議案ほか、平成30年度一般会計補正予算の議決と29年度一般会計決算が認定された。29年度一般会計決算は、歳入総額は9億8180万円。歳出総額9億6711万円。歳入歳出差引残額1460万円を翌年度へ繰り越した。不燃・粗大・危険ごみは、前年比若干の増、リサイクル分別で段ボールを除くと若干減少となっているが、全体で1.4%の増で引き続きごみの減量化が必要である。

南会津広域市町村圏組合議会報告

8月20日に議会定例会が開催され、29年度一般会計決算の他、特別会計では、あいづふるさと基金事業他2件の決算認定議案が提出され原案の通り認定された。

一般会計補正予算は、歳入・歳出それぞれ743万円を追加。主な内容は、地域医療センターの事業廃止による予算の減額。工事請負契約では、消防指令システム・消防救急デジタル無線移設工事8636万円等が提案され原案の通り可決された。



新議場での初会議

一般質問

- **大塚純一郎** 14
移住定住のための住宅整備計画は
- **目黒仁也** 15
「じねんと」運営委託に競争性を
- **藤田 力** 16
来年の新規採用の町職員は
- **鈴木好行** 17
宅地用分譲地の整備計画は
- **鈴木 征** 18
奥会津振興センターの重点事業は
- **山岸国夫** 19
福祉灯油の制度化を
- **佐藤孝義** 20
J R 只見線復旧後の具体策は
- **目黒道人** 21
地域おこし協力隊の定着を
- **酒井右一** 22
例規集の取り扱いに不備

町政を問う

町を想い9名が

一般質問とは

議員が行政全般(役場の仕事全般)に対して、方針をただしたり政策の提言などを行なうことです。

移住定住のための 住宅整備計画は

答 企業に対しては助成制度を検討



おおつかじゅんいちろう
大塚純一郎議員

問

少子過疎高齢化に歯止めがかからない只見町の現状で、人口減少を抑えるためには、「若者定住政策」と「働き場の確保」が最重要と考える。Uイターンを含め、移住定住促進のためには、住宅確保が最優先課題だ。現状では、町内での住宅確保は困難だ。待ったなしの急がれる現状で町はどのような計画を持って取り組んでいるのか。

答

雇用拡大が図られる工場等の新増設の場合、町で助成

制度を定めており、県の助成制度と併せて支援していく。昨年度から新たに町内企業に対する支援策等の検討及び相互交流のため各企業、県、町商工会及び町において意見交換会を開催し、情報の共有等に努めている。また、新規就農者確保のため、トマトや花卉栽培などの重点振興作物の初期投資の大部分を支援する制度を構築しており、今後Uイターン拡大に向けて取り組んでいく。

住宅確保については、民間借上げ住宅の整備で現在4戸整備済みで、今後5戸整備予定である。また、町直営で定住促進住宅として、世帯用4戸整備を進めており、合わせて13戸整備する。

企業等の従業員の住宅対策では、国県にお

いて十分な支援制度がないため、Uイターン促進の観点から町にお

いて企業が社宅等を整備する上での助成制度の創設について、検討

を進めている。

シルバー人材センターの設立は

答 来年度当初の設立を目指す

問

「シルバー人材センター」の設立について、町長は設立を明言している。責

任を持った政策実現を期待する。

答

本年4月にアンケート調査を

実施した結果、回答者の約1割の方が参加を希望しており、町独自による立ち上げを目指していく。

今後3地区での設立説明会を開催し、設立準備委員会を立ち上げ、体制の確認と予算の検討、業種の選定などを協議した上で、来年度当初の設立を目指した取り組みを進める。



シルバー人材センターの説明会 (明和地区)

「じねえんと」運営委託に競争性を

答 範囲を広げることを含め検討

問 地域活動支援センター（じねえんと）の外部委託について、過去にも競争性のない1者との契約の在り方を指摘してきた。30年度の契約に当たって検討はされたか。

答 郡内1者しかない特別な事情という判断で、従来通りの発議決裁で行なってきた。ご指摘の財務規

則との整合も確認しながら、範囲を広げていくことも含め検討する。

問 特別な事情でも随意契約は競争性を持たせるのが原則。競争性のない随意契約は、競争入札に切り替えるか、福祉サービス等で価格競争だけではなじまない契約は、企画提案や公募によって競争性を担保さ

せるのがルールだ。法や町の条例と照らし合わせながら今後対応していく。29年度の実績は、1日の実利用実績が77人と要件の20名を大きく下回っていた。このような場合、次年度の契約の課題として取り上げないのか。町の関与が足りない。

答 反省はある。今後十分に精査検討する。

問 契約手続きに競争性のないのが最大の問題。要綱にある状況調査を行なわれてはどうか。申し上げていることが理解いただける。

答 反省はある。今後十分に精査検討する。

答 国の補助金もあるので指摘がなかったか確認もしたい。内容についても一度精査する。



議員 仁也 黒目

スポーツパーク計画の推進を

答 もう少し意見聞いて判断



只見町は農家民泊に力を入れている

問 スポーツパーク事業に要する財源対策は行なったのか。

答 スポーツ振興補助金が該当するが、上限7000万円、その他財源を優良債で考えた場合、来年度大規模事業の計画もある。

問 財政面だけの判断ではなく、町の交流人口対策を推進

するというのが町長の政策としてのご判断は。

答 広域消防の負担金、町の行政無線のデジタル化事業、民具資料館建設等が今後ある中で少し高額という判断。内容をもう少し精査し、今年度駐車場整備を進めていく中でいろんな方の意見を聞いて方向性を決めたい。

来年の新規採用の町職員は

答 現時点では申し上げられない



ふじ 藤 田 ちから 議員

答 まず、意向調査を行い、再任用希望の申出、可否決定通知の流れで実施している。面接については

問 再任用について、どのような手順で採用されるのか、面接などを実施しているか。

答 現時点では採用人数を申し上げられる段階にない。

問 若者定住といっても働くところがなければ、若者は町にいられない。来年、新規採用の町職員を何人採用するのか。

従前の勤務実績等に基づく選考による採用とし、必要に応じて面接を行うこととしている。

問 6月の答弁で再任用について

「町としては県や他の市町村の運用実績を鑑み」と話されている。調査の中身を聞きたい。

答 郡内、近隣町村に聞き取り調査をした。結果、やって

いる町もやっていない町もあった。

問 私も言うだけでなく調べた。金

山町1人、昭和村0人、南会津町4人、下郷町0人。再任用導入、只見が郡内で一番ということにどう思うか。

答 今後は今年度からの退職者が対象になるので少なくなる。

若者定住のために強力な援助を

答 社会保険料の支援は検討

問 若者定住は絶対必要だと思う。

そこで平成25年から29年まで5年間の只見高校卒業生の進路を調べた。卒業生198名のうち、大学・短大・専

門学校には145名、

町内就職者は7名だった。

そこで、2つのことを

提案したい。1つは、町

で来春、只見高校卒業

生を1人採用するとい

うアドバランをあげる

こと。2つ目は、町内の民間企業も人口減や風評の中で経営が容易でない。そこで、農業も含めた民間事業者が新規に若者を採用する場合、町は本人と事業主が負担する社会保険料を全額、10年間、補助する。このくらいの強力な援助が無ければ、若者定住に結びつかない。

答 高校の校長先生や進路指導の先

生に町の試験を受けていただくよう話をしている。また、社会保険料の支援という提案については、現行制度で何が可能か、企業側の要望も含みながら検討したい。●他に国版、森林環境税を活用した林業の活性化について質問した。

只見高校生の進路内定状況

年度	卒業生数	大学 短大 専門学校	公務員	民間就職	内町内	備考	発表月日
25	43	32	2	8	1	その他1	確定
26	33	24	0	8	4		3・31
27	41	27	延べ6	延べ11	1		3・11
28	41	31	3	7	1		3・30
29	40	31	1	8	0		3・30
合計	198	145	12	39	7	1	

宅地用分譲地の整備計画は

答 住宅の需要状況等を鑑み検討する

問 新築のための宅地分譲地整備等の政策が必要と考えるが、計画はあるか。

答 宅地分譲地は、今後の住宅の需要状況や周辺環境、住民ニーズを鑑みながら検討したい。

問 需要があるときにすぐに提供出来るか。

答 来るような住宅政策が必要と考えるがいかか。

答 今後の空き家対策と併せて検討したい。分譲地整備については予算もかかることから要望があればできるだけ対応したい。

問 大規模でなくても2、3戸から

始められないか。

答 空き家の跡地、集落の維持も含め、内部協議をしながら進めて行きたい。

問 空き家バンク事業の実績が上がる原因は何か。また、今後の空き家に対する新たな政策はあるか。

答 空き家の所有者が登録を控えていたり、所有者と利用者とのマッチングが進まず実績につながらないと分析している。今後は空き家改修補助金の上乘せや空き家所得費助成などの検討を進めて行く。

問 空き家を有効利用する若い人たちが定住できる環境づくりが必要だ。町として今後の政策はあるか。

答 空き家の有効利用については制度設計の見直しも含めて検討したい。

JR只見線 景観整備計画の場所は

答 絶景ポイント等の洗い出しをする

問 町内での景観整備計画の場所はどこか。また、その整備内容はどのようなものか。

答 只見線利活用計画・奥会津景観整備プロジェクトにおける道路等景観整備推進協議会にて9月下旬に現地調査を行ない、各町のポケットパークや絶景ポイント候補地の洗い出しをする。

問 元JR田子倉駅周辺の整備計画、県との協議等はあるか。

答 紅葉時期には多くの観光客で賑わっており、4か所をドライブマップで紹介している。県でも案内看板を設置しており、既存の施設の有効性を高める方策を検討する。

問 田子倉レークビューの営業状態をどうとらえている

答 去年は遊覧船の修理、今年は大湖の濁水により遊覧船の運行に支障があったため売り上げが上がっていない。今後はJR只見線の復興に併せ、観光客のダムへの誘導などを検討して行きたい。



積極的な観光施策が望まれるレークビュー



議員 好行 鈴木 好行

奥会津振興センターの 重点事業は



議員 鈴木 征 すすむ

答 外国人旅行者誘致で活性化

問 現在三島町に事務所を置く奥会津振興センターの組織の概要と体制は。

答 奥会津地域が抱える課題に広域的に連携して取り組むことを目的に平成22年度に三島町町民センター内に開所した組織だ。人員体制は、柳津町、三島町、金山町、昭和村、只見町の5町村の職員各1名と福島県派遣職員1名で構成されており、本年度はその他地域おこし協力隊や臨時職員を含め総勢11名体制で事業を

行っている。

問 現在奥会津振興センターで特に力を入れている事業は。

答 近年、国内旅行小の中で外国旅行者誘客を積極的に推進し奥会津地域活性化の起爆剤として期待している。

問 町は将来どのような事業展開を期待しているのか。

答 現在の只見川電源流域振興協議会の第3期事業計画が来年度末で終わることから今年から第4期計画づくりに入っている。その理念は「観光地づくり」から「観光地域づくり」への方向性を見据えており、自然、歴史、文化を最大限生かした訪れたい地域を作っていくことと認識している。

新庁舎の新築計画は

答 申し上げる段階でない

問 役場庁舎は暫定移転の目途もつき旧庁舎の解体も計画されている。今後の新築計画はどのように進んでいるのか。

答 来町者や職員に暫定移転を決定し、今年5月初旬に職員の移動が完了した。今後は一部事務室などの改修と旧庁舎の解体を予定している。現在まだ暫定移転の作業進行中であり、新庁舎の建設について申し上げる段階でないことを理解いただきたい。

問 暫定移転に要した額は。

答 今回お願いした補正予算を加え総予算約3億7800

万円。現時点の執行額は2億3000万円。



町下庁舎の駐車場予定地

福祉灯油の制度化を

答 降雪状況見ながら検討

問 福祉商品券（福祉灯油）を生活支援策として制度化することを提案してきた。再度、福祉商品券（福祉灯油）の復活と制度化を提案する。町民からは冬を過ごすのに助かったと大変喜ばれた。豪雪地帯の当町において、お年寄りが寒い冬を暖かく過ごすために町が手立てをと

答 降雪状況を見ながら検討することは、健康維持や福祉施策として、大切な施策だ。

問 燃料高騰による支援等については、郡内他町村の状況等も踏まえ判断する。

答 町独自に町民に寄り添った暖かい手を差し伸べる福祉施策と位置付ける対応を。

答 やらないことではない。灯油単価、降雪状況を考慮しながら時期も含め検討する。制度化は福祉政策や他の克雪対策も併せて内部検討する。

問 町は、子育て支援策として年長児・年中児の保育料を無料化してきた。内閣は、来年10月から幼児教育無償化を打ち出している。この方針では、3歳～5歳児及び住民税非課税世帯の0歳～2歳の子供が無料となる。この国の予算措置で町独自の保育料減免

答 額は浮くことになる。この金額はいくらか。3歳児約300万円、年中児約500万円、年長児約200万円、合計約1000万円となる。

答 国の予算編成過程など情報収集に努める。今後の子育て支援策は、これまで取り組んできた妊娠時、出生時、未就学時、就学時別の各種支援や助成制度を充実させる。保育料は国の基準額から最大7割低減を継続する。

問 この浮いた金額を、引き続き子育て支援分野で使うよう求めるが、子育て支援対策の計画を明確に

答 国の子供の保育料無料、学校給食費無料化に向けた段取りなど基本的な支援策を求めている。

た。再度、福祉商品券（福祉灯油）の復活と制度化を提案する。町民からは冬を過ごすのに助かったと大変喜ばれた。豪雪地帯の当町において、お年寄りが寒い冬を暖かく過ごすために町が手立てをと

問 町独自に町民に寄り添った暖かい手を差し伸べる福祉施策と位置付ける対応を。



山岸 国夫 議員

今後の子育て支援策は

答 子育てのあり様を庁内で検討



朝日保育所運動会

答 施設と人員配置の関係など課題が多く実現に至ってないが、検討していく。

問 「認定こども園」はどうなるか。

答 国の予算措置で様々波及がある。子育てはどうあるべきか庁内で対策を進める。

問 全ての子供の保育料無料、学校給食費無料化に向けた段取りなど基本的な支援策を求めている。

J R只見線復旧後の具体策は

答 利用促進事業に力を入れる



さとう たかよし 議員
佐藤孝義

問 県はJ R只見線復旧後、沿線市町村と連携を取り、観光路線として進めたいとしているが、町の対応を問う。

答 県の利活用計画を推進するため、沿線市町村と連携し、企画列車や教育列車などに取り組みとともに、つながれ只見線応援イベントなど利用促進事業にも力を入れていく。また、観光案内や只見線の応援イベント等に取り組み住民や団体等に支援していく。

問 五能線の視察を受けての町長の考えを問う。

答 J Rと沿線地域の方々が協力して地道に積み上げてきた知恵と工夫にあふれている路線と感じた。地域資源を活かして観光路線化するため、J Rと沿線市町村が連携して、列車のダイヤを考慮した各駅から観光地へアクセスできる二次交通網を整備し、自然、郷土食、風景、歴史文化などを堪能できるプログラムを磨き上げて観光誘客を図っていく。

小学校英語教師配置の内容は

答 平成32年度改訂に対応するため

問 町内の小学校に初めて配置されるのは、現在の状況を問う。

答 平成32年度から小学校学習指導

要領が改訂となり中学年で「外国語活動」、高学年で「外国語科」が導入されることに対応するために、本年度と来年度は移行期間であり、現段階からAL

T配置が児童の学力向上や教職員の指導充実につながるものと考え、力を入れて取り組んでいる。

問 今後の発展的対策について問う。

答 現在、外国語活動の年間時数は、中学年が15時間、高学年が50時間であるが、平成32年度には、中学年が35時間、高学年が70時間となる。引き続き、小学校の外国語教育の充実に向けて新教材の整備や教員研修の改善に努めていき、中学校では通常会話ができるようにしたい。



小学校に配置になったALT

地域おこし協力隊の定着を

答 地域と連携して取り組む

問 地域おこし協力隊の任期後の定着率が低いと感じている。また、彼らにとつてやりがいのある事業になっているのか、現状と今後の展開を伺う。

答 これまで延べ12名、現在は7名の方が協力隊として活躍されている。定着率は3割ほど。

問 定住に向けて相談に乗ったりしているか。

答 地域のNPOを紹介したりしている。理想としては起業していただくのがこの事業の主旨に叶うものと考えている。

問 ば、地域との関わり合いも増えるのではないか。

答 あらかじめ空き家に住んでもらうことを条件に募集している他町村の事例もある。有効だと思つて検討したい。

問 念は共感できるが、定着を望むのは難しいのではないか。

答 只見での生き方を考えられるよう、ダイヤモンドプラン10期生に参加している。地域の人のふれあいを通じて定住を考えてもらえたら。

問 地域おこしの主体は我々町民であつて、彼らは協力者である。この視点が抜けているのではないか。

答 困難な課題が多い地域にとつて町民のみで解決することは不可能だと考える。彼らが地域と連携できる取り組みを提案したい。

問 2020年に「峠」が映画化される。ぜひ「河井継之助バカ」と呼ばれるような熱意ある若者や協力隊として河井記念館に配属し地域を盛り

答 映画による効果は期待しているが、記念館専属とできるものか内部検討していきたい。

上げてもらつてはどうか。

映画による効果は期待しているが、記念館専属とできるものか内部検討していきたい。



とみち黒道議員 目黒道

問 教育分野に協力隊を活用する理

答 専門の職員を配置する予定はないが、各課が連携しながら学習会や交流会を設けるようにしたい。

問 「峠」が映画化される。ぜひ「河井継之助バカ」と呼ばれるような熱意ある若者や協力隊として河井記念館に配属し地域を盛り

答 2020年に「峠」が映画化される。ぜひ「河井継之助バカ」と呼ばれるような熱意ある若者や協力隊として河井記念館に配属し地域を盛り



映画「峠」で地域おこしを

例規集の取り扱いに不備

答 できるだけ早く是正したい



さか い ゆう いち
酒井右一議員

問

只見町例規集と
その取り扱い
に、あつてはならない
不備や不見識が見受け
られる。

このため、今、町政
は混乱しているのでは
ないか。議会も町当局
も、法令を守らなけれ
ば感情や思いによって
政治が行なわれること
になる。公平・公正は
法令遵守が徹底されて
こそ成し遂げられる
が、どうか。

答

ご指摘のとおり、
条例や規則・
要綱など、改正されて
も町例規集に反映され

ていないものがある。
今、早急に是正を指示
している。

問

例えば、「只見
町事務決裁規
程」、これを見ると現
時点で「存在しない職
の者」が重要な決裁を
する。或いは、「克雪
対策事業補助金交付要
綱」では、既に廃止さ
れて長期にわたる規程
が現存する。これら、
存在しない規程により
決裁された事務や財
務・事業や執行した予
算は有効か。

答

各法令に照らし
て「判断したも
のではない」が、私は
有効であると認識させ
て頂いている。

問

条例はもとよ
り、規程や要綱
であっても、「公共性
の強いものは住民に公
表されるべきもの」と
法令にある。今後は例
規集に掲載すべきも

の、そうでないものを
整理し、例規集の扱い
は慎重にお願いしたい。

答

条例以外の規程
は例規集に掲載
しないものがある。で
きるだけ早い機会に是
正し、議員の言われる
ように改める。

●他に公共交通体系の
確立などについて質問
した。

例規集とは

役場は、国の法律とは別に事務を行
なう決まり「条例」「規則」などを定
めて仕事を行なっています。それらを
「例規」と言い、まとめたものを「例
規集」と言います。



只見町例規集



ブナリン

教えて! 議会のこと

Vol.17



アカシヨウちゃん

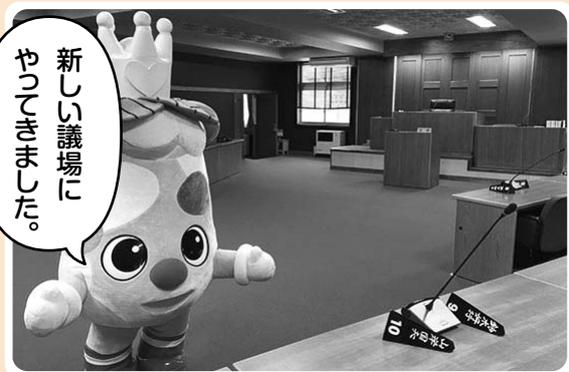
議場が新しくなったよ!



イワッペ

只見町キャラクター ©Tadami

これまで仮の議場でしたが、町下庁舎暫定移転に伴い議場が新しく整備されました。新しい議場をブナリンがレポートしてくれたよ!



只見町議会中継は、只見町議会ホームページからも視聴できます。



只見町らしさ



只見中学校 2年
宇野 心 晴

私は只見町に住んでいて、他の地域には無い只見町らしさを感じることがあります。

小学生のときには地区の伝統芸能を学び、つる細工も教えていただきました。また、地場産品で作られた給食の行事食も只見町ならではだと思います。

自然が豊かで雪まつりをはじめとした様々な行事や観光施設。ぜひもっと多くの方々に只見町を訪れていただき、『只見町らしさ』を感じていただけたらいいなと思います。

皆が誇れる只見町



只見中学校 3年
目黒 優 斗

僕が思う只見の誇れること。それは、四季折々の景色と町民の方々の温かさです。

まず、四季折々の景色とは、春の桜、夏の深緑、秋の紅葉、冬の雪食地形といった四季ごとに様々な表情を見せる美しい景色のことをいいます。

次に町民の方々の温かさです。いつも道端であいさつすると、笑顔で返してくださいます。町民の方々は、只見の自然のように美しく広い心を持っています。

只見のよさを生かし、町民みんなで、只見町をもっともっと盛り上げていきましょう！

11月11日(日)議会報告会を行ないます!

テーマ…若者定住、子育てしやすい町づくり他

午前10時00分～ 只見振興センター
午後 1時00分～ 朝日振興センター
午後 3時30分～ 小林公民館
都合のいい会場におこしください。

子育て中のお父さん、お母さん、是非参加ください。



編集後記

今年は、猛暑・渇水で健康管理、農作物への影響の不安を抱え大変な年でした。この議会だよりが発行される頃には、冬の準備に忙しいと思えます。

今後のインターネット議会中継と閉会後の録画による動画配信サービスは「ユーチューブ」となります。引き続き、分かりやすい「議会だより」の編集に努力します。

(山岸 国夫委員)



発行責任者

議長 齋藤 邦夫

広報広聴常任委員会

委員長 目黒 仁也

副委員長 目黒 道人

委員 藤田 力

大塚純一郎

山岸 国夫

鈴木 好行